

おひさま新聞

NO.12

自然との関わり・生命尊重 編

すみれ組が毎日世話をしているアゲハチョウの幼虫が蝶になって巣立っています。幼稚園のミカンの木で見つけた幼虫、「育てたい!」と小さな黒い幼虫の頃から図鑑と実物を比べながら、今は「これやな」「三令幼虫やな」とお互い確認しながら観察をする姿がありました。また、幼虫育てを通して友だちがつながる場面もありました。ある日の畑の水やりの際、人参の葉に新しい幼虫を発見!「なんやろう?」「OOくんに聞いてみよ」と呼びに行き、確認してもらおうと「キアゲハやで」という答えが返ってきました。「人参の葉を食べてるから同じ葉しか食べない」と教えてもらい、世話を始めました。「めっちゃ葉っぱたべるなあ」「でっかいなあ」とアゲハの幼虫と比べたり、『さなぎになってからいったいどれくらいで蝶になるんだろう?』という新しい疑問が出てきて「2日くらいちゃう?」「明日ちゃう?」と子どもたち。画用紙にさなぎになってからの日数を書いて一緒に数えることにしました。だいたい12日から13日くらいで蝶になる事がわかりましたよ。今後、クラスのみんに報告会をしようと思っています。興味を持ったことに毎日夢中になって観察し、友だちと一緒に一つの事を考えたり、知恵を出し合いながらイキイキと取り組む姿が見られ、自然と生命の尊重を体験的に実感した子どもたちでした。

